

# ALUMNI AND ALUMNAE NEWS NO. 3

令和4年3月に第III期 教職実践高度化専攻（教職大学院）院生が2年間の学びを終え、教職修士（専門職）の学位記を手それぞれに道に巣立っていきました。教職大学院では、高知県の課題解決に向け、院生それぞれ自らが設定した研究課題に沿った研究活動に邁進し大きな成果を残すことができました。

学校運営コースの石川真美さんは、「中学校における組織力を高めるマネジメントの在り方」、中澤悠子さんは、「協働的に学び続ける学校を実現するための方策を探る」について研究し学びを深めました。

教育実践コースの畔元杏奈さんは、「中学校における『考え議論する』道徳授業の在り方」、岩原朋史さんは、「科学的に探究するための理科学習指導法の開発～仮説設定場面に着目して～」、加藤翼さんは、「ウェルビーイングを高める学校経営の在り方に関する研究」、笹岡久乃さんは、「言語活動を通し4技能育成を図る授業改善の工夫～書く力を養う英語科の教材及び学習指導の開発～」、嶋村明日華さんは、「ICTを活用した『深い学び』を実現する授業開発～複式学級の性質をふまえて～」、田邊元基さんは、「数学教育における深い学びを実現する授業の研究～統合化の視点から～」、戸梶良輝さんは、「望ましい友達関係を目指した教育支援プログラムの開発～ピア・サポートの視点から～」、徳橋佑哉さんは、「高等学校における仮説検証型授業が与える効果について～理科の観察・実験における興味の深さと学習方略に着目して～」、戸田哲寛さんは、「児童生徒理解に基づく開発的生徒指導の進め方～セルフ・エフィカシーに着目して～」、中村彩乃さんは、「数学的活動を軸とした数学授業について～不変性を探求する授業デザイン～」、若松柚似さんは、「理科の見方・考え方を働かせた科学的に探究する学習指導の在り方」について研究し実践を繰り返す中で更なる学びを獲得しました。

そして特別支援教育コースの島崎やよいさんは、「支援が必要な児童への効果的な支援方法」、土居一平さんは、「知的障害特別支援学校におけるライフスキルの視点に基づいた道徳の研究」について効果的な方法を探り続けてきました。

それぞれの成果は、各学会発表や学術論文として公表されています。4月から現職派遣院生10名は置籍校や学校や教育委員会等で勤務し、ストレートマスター修了生5名は教員として教壇に立っています。ここでは、今や教育現場の中核的存在になり、即戦力として教育現場で活躍している様子と、教職大学院で学んだ自らの経験から、多くの教員への波及効果を目指して日々奮闘している様子を語ってもらいました。

## 【学校運営コース】

石川真美さん「子どもたちと教職員が幸せである組織をめざし、今自分ができることを 四万十市立中村西中学校」



4月より在籍校に戻り、学級担任と研究主任をしています。在学中は、組織を「共通目的」をもち、目的を達成するためにコミュニケーションを図りながら互いに貢献していく集団と捉え研究してきました。そこで、研究主任として、目標や課題の共有、それについて教科や学年単位で対話の場を設定等、先生方が思いや考えを出し合えるよう努めているところです。また、ミドル会を継続させ、子どもや学校のために、自分たちができることは何か等意見を言い合える場や関係も大切にしています。今後も、教職大学院での学びを広げ、仲間と共に高め合っていきたいと考えています。

中澤悠子さん「学校教育目標の実現のために教職員が主体的に学び高め合える学校の実現を目指して 高知市立三里小学校」



2022年4月からは在籍校に戻り、学級担任をしながら研究を継続しています。自分自身が構想した分掌組織のリーダーとなり、プロジェクトの目標実現のために分掌組織を運営していますが、やはり課題は「多忙感」であると痛感しています。業務の精選や簡素化なしでは、学校における学びの充実は難しいと感じます。また、「学級経営シート」「学びシート」「学習レポート」の各種シートを自分自身も作成しながら、その内容や活用方法の検討を進めています。院生の頃とは、また異なる視点から研究を捉えることができ、新たに気付くことも多くあります。学校における「学び」が、能動的かつ協働的なものとなり、それが学校の目標の実現につながることを目指して引き続き研究を続けていきます。

学校運営コースより オンライン授業が多かったため、対面授業や「地域リソース」の授業で学外に出て、地域の方にお話を聞いた授業は特に印象に残っています。研究テーマを基に、離れて在籍校を見たり、自分の言動を振り返ったりしながら学校の良さや課題について院生室で話をするひとときも有意義な時間でした。何より、集中講義の課題13本を年末年始にひたすら取り組んだことは、苦しさだけでなく、2人で「よくやった!」と笑えるいい思い出となっています。

【教育実践コース】

畔元杏奈さん 「中学校における『考え議論する』道徳授業を協働的に行う風土づくり 日高村立日高中学校」



勤務校は、道徳の指定校であるため、年に10回ほどの道徳の授業研が実施される予定で、授業づくり講座も含めて、現在5回の授業研が終了したところです。他学年にも一緒に入って、指導案研究や模擬授業などを行っています。教職大学院で学んだ知見を振り絞って、良い授業になるよう授業の発問や問い返しなど提案しています。授業者や学年の先生方と授業を作っていくことは、大変ですが、先生方が前向きなため、楽しく充実した時間となっています。残りの半年も、道徳の授業がより良いものとなるように努めていきたいと思っています。

岩原朋史さん 「理論と実践の往還 高知県立高知小津高等学校」



現在、私は高知県立高知小津高等学校で勤務しています。本校は、理数科が併設されており、探究活動が活発です。そのため、現職派遣の先生方と仮説検証型授業について、共に学んだ経験は、普通の授業で活かせる点が多々あり、現場で活かしています。もちろん、日々の授業では、あまり上手いかないこともあります。職場の先生方と教材研究や授業研究に取り組むことができ、充実した教員生活を送っています。今後、皆さんと一緒に勤務できることを楽しみにしながら、日々頑張っております。

加藤 翼さん 「勤務校におけるウェルビーイング向上～全員支援教育を通して～ 奥多摩町立奥多摩中学校」



私は現在、東京都の奥多摩町立奥多摩中学校で勤務しております。在学中はストリートマスターとして、現職の先生方と一緒に学んでおりました。現在は、初任者として中学校で教壇に立ち、数学を教えています。在学中での学びや経験を活かせる場面は多々あります。例えば、現場では、「ウェルビーイングを高める授業設計」というテーマで、在学中に得た知識や研究結果を基に、日々教育活動に取り組んでいます。さらに「理論と実践の往還」を意識し、すべての活動に取り組むことができ、2年間の学びはすべての教育活動に活かすことができている。今後は、生徒だけでなく教職員や学校に携わるすべての人のウェルビーイング向上を目指して、様々なことに取り組んでいきたいと思っています。

笹岡久乃さん 「授業改善に向けた教科会の充実 高知市立朝倉中学校」



現場に戻りまず感じたのが、時間の経過の速いことでした。時間に追われる感覚がよみがえりました。本年度は、教職大学院で学んだことが、初任者の育成に役に立っているのではと感じています。特に授業改善において、データを取り客観的に振り返りを行い、次にどう生かしていくか等を検証して具体的な話し合いができるように教科会に取り組んでいます。生徒の書く力を向上させるために、生徒の意欲を継続させるための目標設定を第一として有効な活動を検討しています。しかしまだまだ不十分で、成果が出ていないので、今後継続して取り組んでいきたいと考えています。

嶋村明日華さん 「ICT 活用で授業力のさらなる向上を！ 香美市立大柵小学校」



現在、香美市立大柵小学校の第1・2年複式学級担任として勤務しています。また、校務分掌としては研究主任・情報担当等の役割を担っています。本校の今年度の研究は、自身が教職大学院で学んだICT活用についての理論的な考察や各教科の授業デザイン等、ICT活用の取り組みの共有から出発しました。全ての児童が等しく授業でICTを活用するためには、児童と共に教員の意識とスキルアップが肝となります。本年度は中学校と共に9年間のICT活用の研究を行うことになりました。学校全体で、複式学級における一人一台タブレットでの学習や遠隔授業等、更なる授業デザインに取り組んでいます。

田邊元基さん 「教師生活1年目教職大学院で学んだことを活かして頑張ってます。御坊市日高川町中学校組合立大成中学校」



私は、和歌山県の大成中学校に勤務し、中学校1年生の数学を担当しています。大成中学校の1年生は元気で真面目なので、楽しく授業ができています。部活動は経験したことがない女子バレーボール部を持ち、生徒と一緒に頑張っています。教職大学院で研究した数学教育における統合化は、1年生の現段階では、統合する段階までは扱っていませんが、その前段階である問題を発展させることは、授業の中で扱うことが出来ており、生徒は興味を持って考えてくれています。また、研究の中で様々な教材や実践を学ぶことができたため、日々の授業を考える上でも参考になっています。これからも教材研究や実践研究を行う中で自分の指導力を向上させていきたいです。

戸梶良輝さん 「常に実践を俯瞰し、分析的な目で振り返る 高知市立神田小学校」



私は現在、高知市立神田小学校で勤務しております。大学院在学中はストレートマスターとして現職の先生方と共に学ばせて頂きました。大学院在学中とは違い、現在は初任者として小学校で日々の教育活動に励んでいますが、在学中に得た知識や物事の見方を活かせる場面は沢山あります。例えば、児童が騒がしくなっている場面で「児童の集中力がないからこうなっている」と見るのか「児童が騒がしくせざるを得ない状況を教師が作っている」と見るのでは大きく違います。このように自身の実践を俯瞰し、分析的な視点で見るとは大学院で得た大きなスキルの一つです。これからの長い教師人生の中で一番大切な考え方や目を養えたことは私の宝です。

徳橋佑哉さん 「大学院での研究+αが教科教育の学びを豊かにする 高知県立高知国際高等学校」



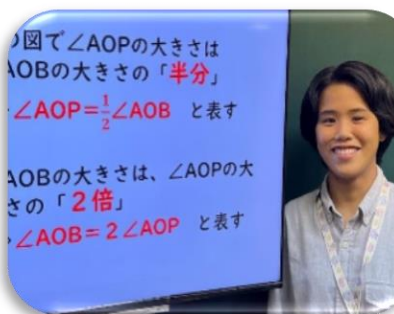
国際バカロレア教育に携わるようになって早半年になります。秋風を感じながら執筆しております。私の場合、大学院での研究が生かされているのはもちろんですが、+αのゼミ活動で得た学びが大いに役立っています。「科学の本質」とリンクするDP ChemistryやTOKの授業を通して、「知識とは何か」、「知識の種類によって解釈の余地の大小は異なるのか」、「どのようなエビデンスが主張を裏付ける根拠として有効なのか」という、どれも答えが1つではない問いと向き合っています。また、高大連携授業において高知大学の先生方とつながりもあり、「縁」を感じております。

戸田哲寛さん 「教職大学院での学びをセカンドキャリアへ 南国市教育委員会事務局学校教育課」



今年度の4月より、南国市教育委員会事務局学校教育課に勤務しております。学校の現場を離れ、今まで経験したことのないような業務に携わっておりますが、教職大学院で学んだ理論に基づく「ものの見方や考え方」を活かして、日々充実した毎日を送っております。現在は、主に特別支援教育に関する業務をメインに担当しており、保育園や幼稚園に出向いて、子どもたちや保護者と就学に向けて関わらせてもらっています。教育委員会では、さまざまな教育政策に携わることが多く、教職大学院での学びが色々な場面で活かされております。今後も教職大学院での学びを広く還元できるように自己研鑽をしながら、子どもたちのために頑張っていきます。

中村彩乃さん 「数学的活動を軸とした数学授業について 宝塚市立南ひばりガ丘中学校」



兵庫県の宝塚市立南ひばりガ丘中学校に勤務し、1年生の学級担任、ソフトテニス部の顧問をしています。慣れないことばかりで忙しい日々ですが、学年の先生方や数学科の先生方に助けられ、楽しく教員生活を送ることができています。大学院では、『変数性や不変性を見つけ、文字式を使って変数性や不変性を形式化するような数学的活動』をデザインし、実践してきました。研究してきたことを意識して授業するものの「事前準備・教材研究が甘い」と反省する毎日です。2年間で学んだことや毎日の反省を活かし、もっと成長できるようこれからも研究を進めていきます。

## 若松柚似さん 「日々の授業づくりと教職大学院での学びを振り返って 四万十市立中村中学校」



在院中は概念形成状況の把握を基盤とした仮説検証型授業について研究を進めました。今年度も生徒が主体的に探究を行う理科授業を目指し日々取り組んでいます。そこでは、生徒自身が既存の見方・考え方を働かせて問題を発見したり、仮説を設定したりすることが大切だと考え実践しています。日々の授業を通して、生徒によって獲得している科学概念や最適な学び方が異なることを実感しています。また大学院での学びにより、授業づくりや生徒支援等に関して、自分自身、教師としての見方・考え方が大きく変容していることを日々実感しています。

**教育実践コースより** 教科に関する授業が多くありましたが、特に「理科教育マネジメントの理論と実践」という授業が印象に残っています。様々な場所に出向いての授業で、工業センターではプログラミングを学びました。実際にパソコンにコードを打ち込んで機械を動かしたときには、驚きと感動でした。また「授業研究開発と教育評価」の授業では、逆向き設計の授業作りを学び、実際に授業提案を夜遅くまで残って、院生のメンバーと作ったことは良い思い出です。

### 【特別支援教育コース】

## 島崎やよいさん 「大学院での学びを現場へ 須崎市立須崎小学校」



今年度は在籍校に戻り4年生担任と研究主任をしています。2年ぶりの学級担任。現在、25名の子どもたちと日々楽しく過ごしています。大学院2年間で学んだ特別支援教育は、学級の子もたちだけでなく、メンター会などを通して、学校組織の中に少しずつですが広めることができている。また「エビデンスに基づいた教育実践」は研究主任の仕事にも活かすことができている。大学院での学びは自分自身のコースの学びだけでなく、コースを越えた学びだったと現場に戻って実感しています。

## 土居一平さん 「教職大学院での学びを胸に～実践者として、発信者として～ 高知県立山田特別支援学校」



本年度は、在籍校であった高知県立山田特別支援学校に戻り、高等部主事、学級担任として勤務しています。教職大学院における数々の学び、お世話になった先生方や仲間との出会いは、私にとって大きな財産となりました。この2年間で、知的障害特別支援学校における「特別の教科 道徳」の研究が、全国的にも多くなされるようになっていきます。理論に基づく見方を持ちつつ、自らが実践者として、授業研究を継続していくこと、そして発信者として「学び」を広げていきたいと考えています。

**特別支援教育コースより** 校種の違う先生や、4期生と現場での支援のあり方や引き継ぎなど様々な意見交流ができたこと、また同期の先生とは、各講義の課題を一緒にすることも多く、幅広く特別支援教育について話げできたことは、自分の教員としての財産になりました。また、オンライン上の環境トラブルで協力し合ったり、趣味の話で盛り上がり…笑いの絶えない日々を過ごしました。今思い出してもキャンパスライフ1日1日が楽しかった思い出です。

**【在院生へのメッセージ】** 教職大学院で学んだ2年間は、教職人生の宝物となっています。講義の課題に追われたことや協力して論文抄読をしたこと、研究について語り合ったこと…。年齢や在籍校種が違っても、励まし合って切磋琢磨した大学の同期メンバーは、一生の仲間です。また、教職大学院の先生方は、卒業後の今も相談に応じて下さる心強い存在となっています。在校生の皆さんにとっても、大学院での2年間は、私たち3期生と同様に、かけがえのないものになることを願っています。

**Editorial note:** 第三期修了生は、新型コロナウイルス感染状況の一進一退が続く不自由さの中、変わらず熱心に自己研鑽を続けています。修了後、人間的にも成熟し、新たな課題に立ち向かいながら、精進している様子が伝わってきました。

教職大学院で学んだことを生かしながら、日々関わる子どもたちの健やかな成長のために、それぞれの立場での更なる健闘を祈っています。

発行者：高知大学大学院教職実践高度化専攻長 中野俊幸

編集者：教職実践高度化専攻総務係・ニューズレター委員

発行日：2022年10月25日

事務局：教職実践高度化専攻附属学校教育研究センター

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1 (教職大学院係)

TEL 088-844-8457

E-mail [ks33@kochi-u.ac.jp](mailto:ks33@kochi-u.ac.jp)